



研究テーマ

- 1 森林の最適配置および生態系管理のための森林ゾーニング
- 2 針葉樹人工林の生物多様性保全と低コスト育林手法の開発
- 3 溪畔林をはじめとする自然林および絶滅危惧樹木個体群の保全・修復

研究概要

森林・緑地の機能を持続的に発揮させるための総合的な管理方法がテーマです。森林は「攪乱」（部分的な破壊）とその後の再生（樹木の世代交代）という動きを通して維持されています。ヒトの資源利用は森林にとっては攪乱そのものです。持続的な森林管理を実現するために、ヒトによる森林攪乱を自然のルールどのように合わせていけばよいかを、地形や気象要因、およびそれぞれの樹木の特性から探求しています。最近では、森林の水源涵養機能を強化するための森林管理の在り方や、カンボジア、インドネシアなど海外も含めた里山の適正管理を探求する研究も行っています。

1 森林の最適配置および生態系管理のための森林ゾーニング

森林全体の様々な機能を健全に発揮させるためには、林業をはじめとする生産活動を行ってもよい場所と、生産機能以外の公益的な機能（たとえば水源涵養・土砂流出防備）を重視すべき場所とを明確に区分していく必要があります。現在、地形・地質・気象などの要因から森林の生産力と災害危険度を総合的に解析し、地理情報システム（GIS）を活用して広域で森林のゾーニングを行う手法を開発しています。また、海外の森林・農地景観における土地利用の最適化と森林保全についても研究を行っています。

2 針葉樹人工林の生物多様性保全と低コスト育林手法の開発

針葉樹人工林で木材生産を行いながら、可能な限り生物多様性を維持し修復していく手法を、植物生態学および景観生態学的手法を用いて研究しています。また、厳しい社会情勢の中で持続的に木材生産を行う手段として、コンテナ苗等の新たな種苗を活用し、低コストに森林を育成する方法を研究しています。

3 溪畔林をはじめとする自然林および絶滅危惧樹木個体群の保全・修復

これまでに針葉樹植栽による人工林造成が行われてきた林地について、優先的に自然林を保全・修復すべき場所の選定、森林の現状に応じた保全・修復方法について研究しています。とくに、溪畔林（水辺林）については、土石流などの現象を生物多様性と防災的な視点の両面から評価し、溪畔林の保全と防災の調和を目指して研究を行っています。また、水辺特有の希少な樹木について、その現状を把握し、保全方法を確立する研究を進めています。



ホームページ

【URL 2 件以上あり】

技術相談に応じられる関連分野

- ・ コンテナ苗等を活用した低コスト再造林
- ・ 持続的林業のための森林ゾーニング
- ・ 人工林の広葉樹林化および自然林再生事業

メッセージ

- ・ 共同研究の希望テーマ：低コスト再造林技術の適用条件
- ・ 森林ゾーニングや広葉樹林化等のニーズがあれば、ぜひ教えてください。
- ・ 林業遺産認定に関するご希望や情報があれば、ぜひご連絡ください。

伊藤 哲

いとう さとし

農学部

森林緑地環境科学科

教授

キーワード

森林管理、生物多様性、照葉樹林、里山、熱帯林、自然再生、絶滅危惧種、溪畔林、地理情報システム（GIS）、ゾーニング、低コスト育林、コンテナ苗、緑化、緑地計画、防災

特許情報・共同研究・応用分野など

●革新的技術緊急展開事業

「コンテナ苗を活用した低コスト再造林技術の実証研究」
平成26年4月～平成28年3月

●受託研究：

「穆佐城跡立木管理活用調査」
平成18年6月～平成19年3月

●科学研究費：

「REDD+セーフガードに向けたアジア熱帯の森林・農地景観の最適化戦略の構築」
平成28～31年度